

にほんぶんかきょうしつ

# 日本文化教室 No. 9

国際教育センターでは、外国人留学生が日本の伝統文化に直接触れ、日本への理解をより深めることを目的とし、2003年度から日本文化教室を実施しています。日本人学生も参加し、外国人留学生と日本人学生が一緒に日本文化を体験することで、相互交流を図るとともにグローバルな視点を身につけてほしいと願っています。

## 書道教室 Shodo Class



## 生け花教室 Ikebana Class



## きもの教室 KImono-Wearing Class



グローバル時代は言語と文化を越え、世界の人々が共生することが求められる時代です。国際教育センターも留学生と日本人学生のみなさんがお互いの言語と文化を理解し、共生できるようになるためのお手伝いができればと考えています。

この日本文化教室も、日本の文化について単なる知識ではなく、実践を通して理解することができるよう、実施しているものです。最近は学内の部・サークルの協力も得て、交流的な意味合いも加味しながら実施されています。そこには単に文化の理解だけでなく、言語と文化を越えた協働の促進と共生の実現といった願いが込められています。

この冊子はこれまでの活動を紹介したものです。一人でも多くの留学生のみなさんに参加してもらえればと思っています。みなさんのご参加を心からお待ちしています。

# 生け花 ばな きょう しつ 教室

前・後期

## いきばなきょうしつ 生け花教室

生け花(華道)は、16世紀ごろから盛んになった日本の伝統的な芸術の一つです。自然の花を使って天(宇宙)、地(地球)、人の3要素をバランスよく表現する、という考え方方が基本です。しかし、活け方は華道流派によって異なります。

国際教育センターでは、2004年度から生け花教室を始めました。毎回、その季節のお花を使って基本的な活け方を先生から教えてもらいます。また、上級者用の花材で先生が応用編をご披露して下さったり、参加者にも大変好評な教室です。



講師 赤池房子 (柳華) 先生

### ●プロフィール

現在、財団法人小原流本部支部長。結婚を機に、義母が華道教授だったことから華道を始め、約45年。本学華道部の講師などを含め、長年にわたり華道に携わっている。

趣味 ちぎり絵、旅行、読書。

### ★講師の先生にインタビューしました！

Q : 華道の魅力を一言でいうと何ですか。

A : 色彩的な調和や対比の美しさを表現したり、季節感をふまえて対象とする空間を虚構をまじえて表現すること。

Q : 留学生に日本文化を紹介する意義は何ですか。

A : 皆様がそれぞれの国に帰り、生け花の事を話題にして頂けることです。

Q : 参加者の作品はどうですか。

A : 初めて体験して活けたのを見て、とてもセンスのある様に見受けました。

Q : 参加者の印象はどうですか。

A : 皆さんのがとても楽しそうに活けているので教えていて“ホッ”とします。

Q : 教えてみて難しいと感じる点は何ですか。

A : 一回だけの指導なので、内容的に理解してもらえたかどうか疑問です。

Q : 教えてみておもしろいと感じる点は何ですか。

A : それぞれとても個性のある活け方をするので感心します。

Q : この文化教室の魅力は何ですか。

A : 色々な国の方々と会話をされることです。

Q : 今後この文化教室で挑戦してみたいことがあれば教えてください。

A : 花材もいろいろ取り揃えて各自好きに活け、それぞれ講評しあってはと思います。

Q : 華道に関するおすすめの本や、サイトがあれば教えてください。

A : 書籍 梅のいけばな 小原流いけばな双書4

小原流いけばな基本マニュアル 小原流いけばな双書13

月刊誌 挿花

隔月刊誌 桔梗

WEB いけばな小原流 <http://www.ohararyu.or.jp/>

みんなのいけばな <http://www.minnanoikebana.com>

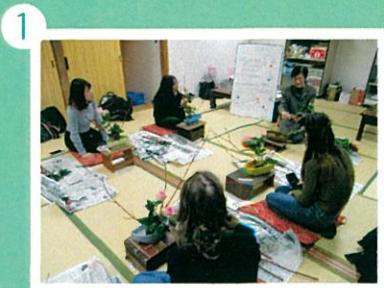
おはらりゅうしづばんじぎょうぶ

小原流出版事業部

おはらりゅうしづばんじぎょうぶ

小原流出版事業部

# 当日の様子



最初に生け花について先生が説明して下さいます。



先生と一緒に活け始めます。



一人一人に、丁寧に教えて下さいます。



最後に先生が応用編を披露して下さいます。



「かたむけるかたち」にも挑戦します!



「たてるかたち」が出来上りました。

## 参加者の声



ドラマで見たことはあるけど、実際に体験したことはありません。意外と難しかったが、先生が親切に指導してくれたため、とても楽しくできました。



生け花では、調和がとても重要であることを知りました。



# きもの教室

## きもの教室

和服はここ数百年全く形が変わっておらず、日常着としての機能はほとんど失われてしましました。しかし、最近は和の美として見直され、若い人々のあいだで人気が復活しています。

国際教育センターでは、2005年度からきもの教室を始めました。前期は浴衣、後期はきものの着つけを通して、日本の伝統文化を体験しています。日本人・留学生を問わず、例年希望者が多いため、とてもにぎやかな教室です。



### 前・後期



講師 我部敬子先生

#### ●プロフィール

我部敬子きもの教室主宰。お茶の水女子大学卒。装道きもの学院で学ぶ。30年以上にわたり、着つけ教室、婚礼着つけ、七五三着つけなど幅広く活動。現在、着物コンサルタント。本学着つけ同好会の講師でもある。

趣味 歌を歌うこと。俳句。

### ★講師の先生にインタビューしました！

Q：先生が着つけを始めたきっかけはなんですか。

A：自分できちんと着物が着られるようになりたかったので。習っていくうちに、人にも着せたい、いろいろな着物に触れてみたいと思うようになりました。

Q：着物の魅力を一言で表すとなんですか。

A：洋服にない日本の美意識が集約されている。

A：数年前、あるきれいな学生がお稽古で着物を着終わりそのまま外出するというので、「履物は？」と聞くとショートブーツでいいと言うのです。最初からショートブーツだとわかっていて、それなりの着方を教えてニューファッションで送り出せたのに、今でも悔やまれます。

Q：教えてみて難しい、あるいは楽しいと感じる点はありますか。

A：私達の若い時に比べ、全体に不器用になっているので、何度もくり返しつのことを教えなければいけません。けれども、努力の結果、上手に着物を着て、紐の扱いなどに慣れてくると、よかったです。楽しいのは、若い人の考え方、方を知ることができること。驚くことや、あきれることや、感心することなども様々です。

Q：今後、きもの教室で挑戦してみたいことはありますか。

A：韓国のチマチョゴリとの共通点を探ってみたいので、両方を着比べる機会を持ちたいです。また、いつか英語で教えたり、もっと楽な着方を工夫したりもしたいです。

Q：最後に、お茶大の学生へメッセージを一言お願いします。

A：お茶大生は目標を立て、それに向かって地道に努力をする学生が多く、この堅実な校風は今どき貴重なものだと思います。信じられない位の早さでわっていく世の中でも、自分はどんな人生を送りたいのかをしっかり考えて前に向かって努力を重ねて行けば、道は開けてゆきます。

# 当の日様子

## 当日の様子



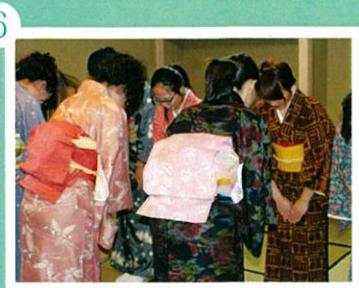
最初に着物の歴史について説明を受けます。



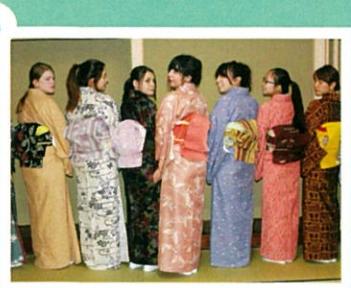
先生からご指導を受けながら、一つずつ、着つけていきます。



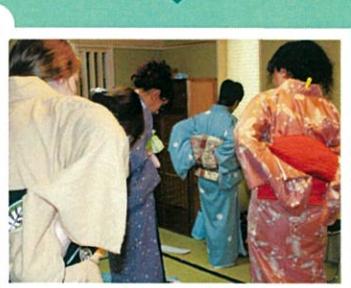
難しいところや後ろ側は先生が手伝って下さいます。



お辞儀の仕方など、所作も学びます。



ようやく無事に着終わりました。



帯結びの仕上げです。

## 参加者の声



面白かったです！きものを初めて着てみましたが、すごくきれいでした。



はじめて着物を着てみました！良い経験になり、楽しかったです。



浴衣は着物とはまた違う魅力があるって、おびのむすび方も色々あっていいと思いました。



書道教室

道

教

室

前・後期

## 書道教室

書道は、筆と墨で文字を書く芸術です。もともと中国から伝わったのですが、日本では漢字に仮名文字を組み合わせて独自の発展をしました。現代では日常生活で筆を使うことは多くありませんが、小学校の授業や習い事といった形で人々に親しまれています。

国際教育センターでは、2003年度後期より書道教室が開かれています。基本的な練習のほかに、前期は色紙に、後期は長い紙に書く書初めにも挑戦しています。



講師 赤木美香先生

### ●プロフィール

書道教室を開いている書家の叔母の影響を受け、5歳で書道を習い始める。師範の資格を持っており、国際教育センターの書道教室を担当している。趣味は、クラシック音楽演奏と鑑賞、特にバッハが好き。それから食べること。



### ★講師の先生にインタビューしました！

Q：書道の魅力を一言でいうとなんですか。

A：集中した時間の中で、お手本（文字）に対し忠実に点画の細部までこだわり書くこと。

Q：留学生に日本文化を紹介する意義はなんですか。

A：書道を通して、日本文化を知ることにより、異なる文化で育った自分（留学生自身）とも向き合うことが可能です。

Q：参加者の作品はどうですか。

A：基本点画をしっかりと押さえても、縮こまらない、伸びやかな作品です。

Q：参加者の印象はどうですか。

A：研究に打ち込む姿勢に似ていると思いました。お手本の文字を理解し、解釈をした後に書き出す作業は、論文執筆と異種同類だと思います。

Q：教えてみて難しいと感じる点はなんですか。

A：正しい姿勢で呼吸を取りながら書くと良い作品ができるが、それはとても難しいです。

Q：教えてみておもしろいと感じる点はなんですか。

A：国により、漢字の受け止め方が異なるところと、テーマ選択が斬新で、新鮮です。

Q：この文化教室の魅力はなんですか。

A：いろいろな国の人々が、書道を通して、理解、評価し合ったりできることだと思います。

Q：今後この文化教室で挑戦してみたいことがあれば教えてください。

A：臨書（歴史上に古典として残る名筆を模倣すること）やTシャツに作品を書くなどです。

Q：この文化に関するおすすめの本や、サイトがあれば教えてください。

A：書道を生活の中に取り込んで創作活動をする書道家の武田双雲さんのサイトです。

<https://www.souun.net/>

# 当の日様子



せんせい ふで つか かた むし くだ  
先生が筆の使い方を教えて下さいます。

## 1 当日の様子



きほんてき かた はんし れんしゅう  
基本的な書き方を半紙で練習します。



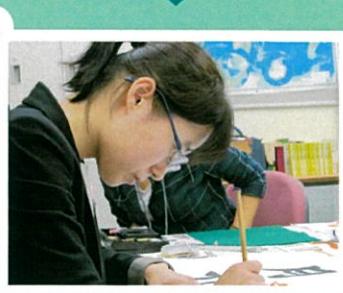
せんせい てほん す  
先生のお手本をみながら、好きな文字や言葉を書きます。



さいご せいしょ さくひん かん  
最後に清書をして、作品が完成！



れんしゅう  
たくさん練習しました。



しんけん ひょうじょう とく  
真剣な表情で取り組みます。

## 参加者の声

しょどう さんか  
書道クラスに参加できてほんとうによかったです。みじかいあいだとてもおちついた。感謝のことばを書く時今までささえてくれたかたがたに感謝の気持ちをこめて字で書いて本当にありがとうございます。



とてもたのしかったです。



かんじ うま か  
漢字は上手く書けなかったので、じっくり書く時間をもらえてよかったです。また参加したい。



茶  
さ

道  
どう

教  
きょう

室  
しつ

前・後期

# 茶道教室

茶道は、茶を通して礼儀作法を修める道です。ただお茶を点てるのではなく、建築、工芸、生け花、料理などと結びついた総合芸術といわれる奥の深い世界です。表千家を中心には42流派ほどありますが、学んでいる人数が最も多いのは裏千家です。

国際教育センターでは、お茶の水女子大学の裏千家茶道部のご協力を得て、茶道教室を2011年から始めました。庭園の中に建つ伝統的な茶室で行われるため、本格的な茶道体験ができると好評です。



講師 吉田啓子（宗風）先生

## ●プロフィール

裏千家茶道 正教授。

祖母、母が裏千家茶道に修道していたこと、また茶道の奥深さに興味を持ったことから習い始め、約16年。趣味 読書、映画鑑賞など。

## ★講師の先生にインタビューしました！

Q：茶道の魅力を一言でいうと何ですか。

A：茶道は、日本の総合文化です。また、茶道を学ぶことでよりよく生きるために道筋が示されるような気がします。

Q：文化教室の魅力はどんなことだと思いますか。

A：茶道を知りたいだけることは意義のあることですが、所作のひとつひとつに深い意味があることを理解していくだけのは、短時間では難しいです。今後もより深い理解のために、時間を作ってもらえたうれしいです。

Q：今まで教えられた中で、思い出深いエピソードなどありましたら教えてください。

A：茶道とは、ただ湯を沸かし茶を点てるだけのことですが、その基には合理性と科学的な洞察があります。AINSHU タイプが、炭手前で湿った灰をまくのを見て、物理の原理に基づく観察に感心したそうです。これを聞き、日本人として誇りさえ感じました。

Q：茶道に関するおすすめの本や、サイトがあれば教えてください。

WEB：裏千家 今日庵 <http://www.urasenke.or.jp/index2.html>

当日のアシスタントを務められた日本人学生からお聞きしました。

Q：難しいと感じた点はどんなことでしたか。

A：日本人にとっても馴染みのない言葉や所作を、どのように説明したら誤解なく伝わるかということです。

Q：おもしろい、興味深いと感じた点はどんなことですか。

A：薄茶を点てる体験をしていただく時、全員がうれしそうにやってくださったことが、とてもうれしく、印象深かったです。

Q：参加者の様子をご覧になって、どんな感想を持たれましたか。

A：限られた時間でしたが、茶道に触れてその良さを感じただけたと思います。

# 当じつの様子す

## 1 とうじつ ようす 当日の様子



掛け軸やお花について先生が説明して下さいます。



普段は見られないところも、特別に見せてくれました。



部長さんのお点前を先生が解説して下さいます。



おいしいお茶に大満足。



今度は自分で点ててみます。



作法にならって、お茶をいただきます。

## 2 さんかしゃ こえ 参加者の声



とてもいい経験になりました。海外ではなかなか体験できないことなので、日本にいる間はいろんな日本文化にすることを体験したいと思います。茶室で食事もしてみたいと思っています。



はじめて濃茶と薄茶を飲んで、その違うところを知りました。茶道は難しいですね。実際に体験していい経験になりました。



日本でのんとうてきな茶道が楽しめてよかったです。この教室に参加させていただいてほんとうにありがとうございます！ すばらしい経験でした。今度は着物も着たいと思っています。



# 歌舞伎勉強会 ・折り紙教室

## 歌舞伎勉強会

歌舞伎は日本の伝統演劇の一つで、1603年頃出雲大社の巫女・阿国が京都で念佛踊りを興行したのが初めとされています。

お茶の水女子大学では、毎年6月頃、留学生向けの歌舞伎鑑賞教室があります。国際教育センターでは、その歌舞伎鑑賞教室をより楽しめるよう、事前に歌舞伎勉強会を開いています。勉強会は、鑑賞教室に行かない学生でも参加できるので、たくさんの学生でぎわいます。

本学の大学院生が講師となり、歌舞伎の歴史や鑑賞のしかた、鑑賞教室の演目について、登場人物やあらすじなどを勉強します。

初心者にとって歌舞伎のことを知るよい機会となっています。



### 参加者の声

歌舞伎や日本文化にあらためて感心しました。勉強会に参加して、思った以上に面白かったと思っております。これから深く勉強しようと思っています。



## 前期

## 折り紙教室

折り紙は、紙を折って動物やお花、生活の道具などのさまざまな形を作る日本の伝統の遊びです。小さなものから大きなもの、立体的なものから平面的なものまで、多くの種類があります。

国際教育センターの折り紙教室でも、箸袋など実際に使えるもの、アニメのキャラクター、年の干支の動物のグリーティングカードなどさまざまな作品を作っていました。これからも、みんなの希望を取り入れながら素敵なお品を作っていくので、ぜひご参加ください。

### 参加者の声

違う色の折紙で出来た作品はすごくきれいで、みたら気分が良くなります。折っている最中もおもしろくて、楽しかったです。



# まんが教室

日本ほど漫画とアニメーションが発達した国はありません。多くの留学生が日本の漫画とアニメーションをきっかけにして日本に興味を持ち始めます。国際教育センターでは、2018年度前期から新たにまんが教室を始めました。漫画研究会の部員と一緒に好きなキャラクターを書きながら楽しい時間を過ごしました。



## 参加者の声

マンガの作り方は思ったよりふかいで。すごく楽しくて、とても勉強になりました。ありがとうございました！



## 部長の声



参加者のレベルが高く、漫画教室と言えるほど漫画の書き方について十分な指導はできなかったが、良い文化交流になったと思う。楽しかったのでまた来年も実施したい。

# お箏教室

お箏は日本の伝統的な楽器で、千年以上前に中国から伝わり日本の風土にあわせて独自に進化しました。「源氏物語」などの古典文学作品にも登場します。

国際教育センターでは2015年度後期からお箏教室を始めました。部員のみなさんが「飛躍」や「三段の調」などの演奏を聞かせてくださいました。みんなで「さくら」を演奏したりしました。



## 参加者の声



すばらしい音です。日本の伝統器楽が好きになっちゃった！

## 文化教室のお手伝い

文化教室は、講師の先生を始めとした、たくさんの方々のご支援のもと続いている。生け花教室では華道部の方々に、きもの教室では着つけ同好会の方々に、茶道教室では裏千家茶道部の方々に、まんが教室では漫画研究会の方々に、お箏教室では箏曲部の方々に、使用するものを準備していただいたり、先生のサポートをしていただいている。

# まんが教室

## 前期

# お箏教室

## 後期

# 外国人ネイティブと学ぶ外国語講座

## がいこくじん まな がいこくご こうざ 外国人ネイティブと学ぶ外国語講座

お茶の水女子大学には、約200人の留学生が在籍しています。そこで国際教育センターでは、①国際的人材の育成、②留学生と日本人学生との交流、③留学生の社会貢献の場の提供を目的とし、2002年より、前期と後期に「外国人ネイティブと学ぶ外国語講座」を開催しています。昼休みを利用して、発音や挨拶、簡単な日常会話などを学びます。参加者のみなさんにとって、外国語の学習のみならず、異なる言語や文化、考え方や価値観の理解を深めるよい機会になっており、また講師を務める留学生のみなさんにとっても、日本での貴重な経験となっているようです。

2018年度前期は「タイ語講座」、後期は「ポーランド語講座」を実施しました。



ぜんき ごこうざ ようす  
前期「タイ語講座」の様子



こうき ごこうざ ようす  
後期「ポーランド語講座」の様子

### さんかしゃ こえ 参加者の声



タイ語（日常生活の中で使えるようなもの）はもちろんのこと、それだけではなく、タイについての知識やライフスタイルについて学ぶことができ、とても楽しかったです。



今まで英語とドイツ語という同じ系統のことばしか学んだことがなかったので、ポーランド語は発音や文法がとても新鮮でした。大好きなショパンの母語が少しわかるようになったのが嬉しかったです。

### こうし こえ 講師の声



ポーランド語講座が開設されるということを聞いた時、とても嬉しかったです。日本でポーランド語やポーランドの文化を紹介できるようになった私にとって、それはとても光栄でした。お茶の水女子大学で初めてポーランド語を教えるようになったので、どのようにポーランド語の文法などをわかりやすく説明すればいいのかということに頭を痛めましたが、毎週、授業の時、頑張ってくれる学生の姿を見て、非常に感動しました。私にとっても、ポーランド語を教えることは、非常に良い勉強になりました。そのような貴重な機会があったことに感謝しています。

## 【こうかいこうえんかい】 公開講演会

年に2回、国内外から様々な先生方をおきし、日本語教育、日本文化理解、異文化理解などについて講演会を開催しています。

2018年度は向山陽子先生と今井むつみ先生をお招きし、講演会を開催しました。向山先生(武蔵野大学グローバル学部教授)は「第二言語習得研究に基づくビジネス日本語教材の開発と実践」というテーマで、今井むつみ先生(慶應義塾大学環境情報学部教授)は「第二言語習得における語彙システムの構築過程と外国語学習への示唆」というテーマでご講演いただきました。



向山先生の講演会の様子



今井先生の講演会の様子

## 【こうかい】 公開セミナー

毎年後期の「多文化共生論」の授業では、「多文化共生とは何か」をテーマに、地域社会、法曹関係、社会福祉、教育実践現場などで活躍する人々をゲストスピーカーとしてお招きし、公開セミナーを開催しています。

2018年度は、藤田ラウンド幸世先生(国際基督教大学客員准教授)、猪狩英美先生(三重県国際交流財団:専門員)、長瀬修先生(立命館大学生存学研究センター教授)、吉野晶先生(法律事務所コスモス:弁護士)の4名をお招きし、現状と課題について討議・検討が行われました。



# 【こうかいこうえんかい】 公開講演会・公開セミナー

# ふろしき教室 ・能学教室

## ふろしき教室と能楽教室も開催しました。

### ふろしき教室

風呂敷は、ものを包んだり運んだりするのに用いられ、日本では庶民の生活に欠かせないものでした。現代では、伝統を見直す「和ブーム」の一つとして、人気が出ています。また、環境にやさしい点も評価されています。

国際教育センターのふろしき教室では、和風ラッピングとしてのふろしきの使い方にとどまらず、日本文化の中でのふろしきの歴史、多様な活用方法に触れ、ふろしきの魅力を学びました。



### 能学教室

能楽は約650年の歴史を持つ世界最古の演劇の一つで、2001年にユネスコの世界無形文化遺産にも指定されている、日本の伝統芸能です。多くの戦国武将や將軍に愛された古典芸能は、海外からも高い評価を得ています。

国際教育センターでは、2017年度後期に能楽教室を行いました。宝生流能楽師の先生をお招きし、おめでたい時に謡われる「高砂」を練習したり、基本動作である舞を習ったりしました。



# 年間スケジュール

	文化教室	外国語講座	公開講演会	公開セミナー
5月 May	●きもの教室 ●おりがみ教室 ●書道教室			
6月 June	●歌舞伎勉強会 ●まんが教室 ●生け花教室 ●ゆかた教室①	●前期外国語講座 (5月～7月)		
7月 July	●茶道教室 ●ゆかた教室②		●公開講演会①	
10月 October				
11月 November	●お筝教室			●公開セミナー (4回)
12月 December	●茶道教室 ●生け花教室	●後期外国語講座 (11月～1月)		
1月 January	●書道教室 ●きもの教室		●公開講演会②	
2月 February			●国際学生 フォーラム	

※開催スケジュールは、年度によって開催の時期が異なります。

# こくさいきょういく 国際教育センターの紹介



国際教育センターは、2001年4月に学内共同教育研究施設として設置されました。センターの国際教育（留学生受入）部門では、①大学院入学前の予備教育、②学部・大学で学ぶ留学生に対する日本語・日本文化教育、③留学生の教育研究の指導や社会生活上の悩みに対する助言など、受け入れから帰国までの一貫した教育指導援助、④日本人学生との相互交流体制の構築を行っています。

## 国際教育センター・ホームページ

<http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/index.html>

## 文化教室

[http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/cul\\_school.html](http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/cul_school.html)

## 外国人ネイティブと学ぶ外国語講座

<http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/native.html>

## 公開講演会

[http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/l\\_meeting.html](http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/l_meeting.html)

## 公開セミナー

<http://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/events/seminar.html>

## 編集後記にかえて

冊子の編集作業を通じ、多くの方のご協力に支えられて文化教室が続いてきたことを改めて感じました。文化教室の発足時から、常に支援してくださるセンターの先生方、いつも心を込めて教えて下さる文化教室の先生方、アシスタントの方たちに心から御礼申し上げます。

国際教育センター 李 恵淑 李 涓丞 吳 映璇 山中 弘子

はつ

行：お茶の水女子大学国際教育センター

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学学生センター棟3階304

TEL/FAX 03-5978-5965

製本・印刷：よしみ工産株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル3階

TEL03-5802-5601 FAX 03-5802-5603